



足立区議会議員 生まれて安心 暮らして安全 歩いて楽しい 足立区に。

長谷川たかこ 区議会レポート

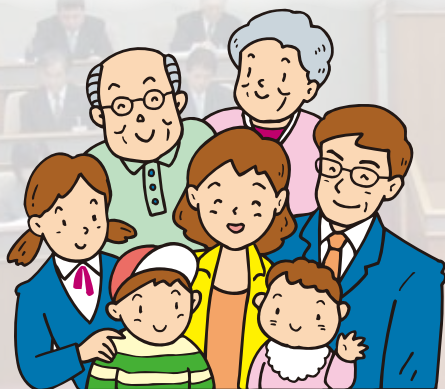
2010年・春

www.takahase.com

1973年3月16日生まれ。中央大学法学部 卒業、青山学院大学大学院 修了。岩國哲人元衆議院議員秘書。
13才と9才になる娘の子育て真っ最中。足立区議会議員、文教委員会 委員、子ども施策調査特別委員会
副委員長、足立区議会民主党 副政調会長などをつとめる。

発行：足立区議会議員 長谷川たかこ
〒120-8510 足立区中央本町 1-17-1
TEL/FAX 03-6380-6682
E-mail: info@takahase.com

足立区で暮らす すべての 人のために



「政治の使命は弱者救済にある」という言葉があります。

足立区には健康な人、体や心に障がいを持つ人、小さな子どもからお年寄りまで、多くの方が生活しています。

私たちは、一人では生きられません。

同じ足立区で暮らす全ての人にとって、足立区が安心して楽しいまちになるためには、いわゆる「生活弱者」と呼ばれる人にも、やさしさと思いやりのある区政が求められています。

財政や地域経済、治安など、どれも大切な課題です。それと同じく「社会的に弱い立場の人たちの声」を区政に届けることも、政治家の大切な課題だと考えています。

社会的に弱い立場といっても身体的なもの、経済的なもの、様々です。私はその一つひとつを紐とき、小さなことでも積み重ねることによって解決に向かうとの信念のもと、区議会で活動させていただいています。送り出させていただいて3年、実際に実現したもの、また実現に向け進んでいるものもありますが、これからも「社会的に弱い立場の人」の側にたって活動しつづけていきたいと思っています。

議会での取り組みをご紹介します。

政策提案 1 カラーユニバーサルデザイン 全国先進都市に

ライフワークである「カラーユニバーサルデザイン」は、足立区のさまざまな分野で取り組みが始まりました。中でも足立区役所の取り組みは全庁に広がり、全国の自治体のお手本となりつつあります。



政策提案 2 「あだち子育てガイドブック」 いまの子育て事情に

母子手帳と一緒に配られる「子育てガイドブック」。不安の中で育てるお父さん、お母さんにとって心強い小冊子です。

とはいえ核家族化が進み、身内の頼りなしで子育てをしなければならないご家族が増えています。たとえば、乳母車で出かけると、段差がひとつあっても大変な作業。特にお母さん一人では難しい時もあります。そこで、駅のバリアフリー整備状況や子育て施設ガイドマップなどを盛り込んだ、便利で機能的な、現代の子育て事情に合った内容への改訂を提案しました。今年4月からこれらをカバーしたガイドブックが発行されました。



この区議会レポートは、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構*のアドバイスのもと、色覚の個人差を問わずご覧いただけるようカラーユニバーサルデザインに配慮して作成しました。
*カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)とは、色覚バリアフリー/カラーユニバーサルデザインへの配慮を啓発する活動を行うことを目的に2004年に設立されたNPO法人です。

政策提案 3 「放課後こども教室」 全日完全実施を求める

設置が進む「放課後こども教室」。全公立小学校での開設に向けて数は増えているものの、週に1、2回しか実施されていない学校も多くあります。便利で意味のあるものにするために、全小学校での全日での完全実施を求めました。

現在、区と地域の協議により、実施日数を増やすことも重要な課題として進んでいます。

政策提案 4 「赤ちゃんほっとスポット」 10分の1の予算で

お子さんのオムツ替えや授乳ができる施設「赤ちゃんほっとスポット」を、全公立の保育園に設置することが検討されています。

しかし、他区の実情などを研究し、予算の再検討と駅・公園付近など利用者が見込める保育園のみでの実施を求めました。

結果、当初の10分の1の予算で展開されています。



皆さまの声を 区政へ届けます

長谷川たかこは、社会的に弱い立場の人の側に立って活動しています。これまでに提案した一部をご紹介します。

待機児童解消

使われていない区施設の活用を提案

待機児童の増加は、昨年から引き続き全国的に深刻な問題になっています。足立区でも今年1月1日現在、456人の待機児童があり、前年比で106人増えています。



子どもたちが十分な保育を受けられるように、また保護者の皆さんの負担が一日でも早く軽減するように、使われていない区の施設を保育園として有効活用することを提案しました。

そして今年4月に綾瀬にある「東部工事事務所跡地」を改修し、わかば保育園の仮園舎が開園しました。



おいしい給食

教科との連携で「食への感謝」を

残菜率の低下などを目的に、学校給食をおいしく楽しいものにするための事業が平成20年から始まっています。

その中で、有名なシェフを招いて給食の献立を考え調理してもらう「スーパー給食」事業が行われています。

しかし、いま子どもたちに本当に必要なのは、「おいしい給食を食べること」よりも、世界には満足に食事ができない国があることや食の安全、温暖化による食糧危機、食料自給率の問題といったことを学び、食べることへの感謝の気持ちを養う「食育」が必要ではないでしょうか？

そのことが結果的に残菜率の低下に繋がると考え、「食」と「教科」の連携を提案しました。

ハラスメント防止

率先して防止する行政に

ハラスメント(嫌がらせ)の一つであるセクシャルハラスメント(セクハラ)については、社会的にも認知度が上がり、対策が取られるようになってきました。

セクハラ以外にも、優越的な地位を利用したパワーハラスメントや教育現場でのアカデミックハラスメントなどが潜在する問題として挙げられます。

区の職員や議員、区民の皆さんとの間に存在すると思われるさまざまなハラスメントの防止に向け、問題の把握や対策などを講じ、区として民間企業等のお手本となるような取り組みを進めるよう求めました。

今年度から、庁内でのハラスメントに関するアンケートの実施や職員行動指針の中のハラスメントに関する項目の拡充など、具体的な取り組みが始まっています。

中国残留帰国者

生活サポート情報を提供

足立区には、多くの中国残留帰国者の方が生活されています。中国残留帰国者の皆さんは、血縁のふるさととは日本、育ちの故郷は中国です。日本人でありながら、中国語を話し、中国の文化で育ってきました。半世紀以上経って祖国へ戻り、生活になじめない方もいらっしゃいます。

幼くして親元を離れ、いわば戦争の犠牲者ともいえる皆さんに対して、足立区で安心して生活を送れるよう、地域のコミュニティとの交流や情報紙の配布などを求めました。

現在、一部の地域で交流会が実施され、足立区では情報紙「帰国者だより」を発行し、情報提供を始めています。

